

編輯室の内外

十一月になつたが、まだ政府の豫算編制が確定したと報ぜられると、明日は丸潰れだと言はれ、財務當局は賽の河原の石積をやつてゐるやうだ。ヨーなるもの矢張り歳入減の祟りと、非莫債主義の看板の手前、ド^アするかに惑つてゐる顕れだ。併し無いものは無いのだから一枚看板を塗換えて、政策を更新する勇氣はないものかナ。

秋深くして紅葉の便り頻々、年中路政ばかり論じてゐるもの餘り人間味が無いと言ふので、編輯同人打捕つて日光と鬼怒川に紅葉を訪れた。清水幹事を先頭に路政會を始め同勢三十人、日光見物は眞面目過ぎるが、鬼怒川温泉の一宴を旅の目的とする、あれば、川治温泉の男女混浴を望むもある少し上品なところでは鬼怒大滝の自然美を

方針は決定しない、今日は道路改良費豫算が確定したと報せられると、明日は丸潰れだと言はれ、財務當局は賽の河原の石積をやつてゐるやうだ。ヨーなるもの矢張り歳入減の祟りと、非莫債主義の看板の手前、ド^アするかに惑つてゐる顕れだ。併し無いものは無いのだから一枚看板を塗換えて、政策を更新する勇氣はないものかナ。

役人に執筆を頼ふことになるのであるが、近頃の世の中はケチ臭くなつて、役人が原稿を書くことは、其の所屬する役所の事務の閑散などを證明するものだと杯と言ふ囁け者がある、併し職務上研究し考察したことを世に發表して、人心を指導することは

本誌には斯界權威者の名論卓説を登載することに専念してゐるが、道路のことは文學などとは違つて其の權威者は常に官公署に在職する人ばかりだ、従つて主としてお役人に執筆を頼ふことになるのであるが、

望むもあつて、各自思ひ々々に秋の一日を送つた。其の清遊のお蔭はかうとは言はないが、本誌の發行が二三日遅れたことは寛に相濟まない、一年一回のことだと思つて

夫等の言葉を弄する人間こそ眞に憐れむべきものであらう。

×
×
×
×
×

一本誌 定價 五十 錢
一ヶ年分 金 六 圓

東京市麹町區大手町一丁目内務省内
發行所 社團道路改良會
東京府豊多摩郡代々幡町幡ヶ谷三五六
發行兼 編輯者 小 島 效

東京市小石川區諏訪町五六
印刷所 常磐印刷所
印刷者 堀江關武